

## 中国地域発展推進会議 設立総会 議事録

平成 20 年 11 月 17 日 (月) 15:30 ~ 17:15

米子全日空ホテル 2 階「飛鳥東」

(開会挨拶)

【司会】 お待たせいたしました。少し時間が早いようでございますが、皆様お揃いのようにございますので、ただいまから、中国地域発展推進会議の設立総会を開会いたします。

私は、議長選出までの間、司会を務めさせていただきます中国経済連合会専務理事の鎌倉でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

では、開会に当たりまして、経済界、中国地方知事会を代表して、お二方にごあいさつをいただきたいと存じます。

最初に、経済界を代表いたしまして、中国経済連合会の福田会長、よろしくお願いいたします。

【福田会長】 高いところから失礼いたします。知事さんにおかれましては、1 時過ぎから 2 時間にわたり本当にご熱心にご議論いただいた後、お疲れのところをまことに恐縮でございますが、よろしくお願いいたします。

それでは、経済界を代表して一言ごあいさつを申し上げます。

知事並びに経済界の皆様方には大変ご多忙の中、この会議にご出席くださりましてありがとうございます。中国地域発展推進会議につきましては、皆様ご承知のとおり、5 月 28 日に準備会的に開催いたしました中国地方知事会・経済界の合同会議での合意によりまして、本日、正式に設立される運びとなりました。

中国地域 5 県の行政と経済界のトップが対等な立場で一堂に会し、ディスカッションすることによりまして、スピード感をもって地域経営のコンセンサスを図っていくことが当地域にとって重要なことであろうかと思えます。

東京一極集中など、地域間格差の拡大、あるいはグローバル化による地域間競争の激化、高齢化、人口減少などによりまして地域が疲弊していることに対しまして、官民が一体となり、広域的に対応していくことが、当地域の活性化には不可欠でございます。この場におられます知事、経済界の皆様とともに、さきの合同会議で同意いただきました広域観光をまずは手始めに、さまざまな地域の課題を官民が一緒になって議論し、1 つずつ解決していくことで本会議を実のあるものにしていきたいと考えております。

アメリカ発の金融危機が世界的に拡大する中で、急激な円高による輸出の鈍化、株式市場の不安定による消費者マインドの低迷など、当地域でも景気後退への対応が喫緊の課題でございます。今回のテーマである広域観光におきましても、外国人観光客の減少や、観光消費の落ち込みが懸念されます。一方、国においては、観光庁が設立され、今後の地域への施策も注目されているところでございます。

意見交換の場では、皆様方からの忌憚なきご意見を賜りたいと存じております。今後とも我々経済界は知事の皆様とともに一致団結して取り組んでまいり所存でございますので、知事の皆様方におかれましてはご理解をいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

以上、簡単でございますが、経済界を代表いたしましてのごあいさつといたします。

【司会】 ありがとうございます。続きまして、中国地方知事会を代表いたしまして、会長の藤田広島県知事、よろしくお願いいたします。

【藤田知事】 本日ここに中国経済連合会の福田会長をはじめ、中国 5 県の経済界のトップの皆様方と各県の知事が一堂に会しまして、中国地域発展推進会議が設立されますことを大変喜ばしく存じますと同時に、設立にご尽力を賜りました関係者の皆様に改めて感謝を申しあげる次第でございます。

さて、急速な少子高齢化や人口減少によりまして、長期的な労働力の減少が見込まれ、加えて、国、地方の巨額な財政赤字が累積する中で、我が国は、従来国が全国一律、画一的に施策を展開する中央集権型から、それぞれの地域が多様で活力ある地域社会を構成する真の分権型社会へ早期に移行していかなければならないと考えております。こうしたことによりまして初めて我が国が国際社会において今後とも活力あり、世界から注目される国であり続けることが可能になるのではないかと考えております。

今後、分権型社会を構成する地域間の競争が一層激化してまいります。この中国地域が発展を続けるためには、中国地方の経済界と行政が地域経済の活性化のために諸課題について議論し、一体となって行動するこ

とがぜひとも必要であると考えております。

本日の意見交換テーマとなっております広域観光の推進施策についても、ともに知恵を出し、活性化策を考えていかなければならないテーマだと考えております。このところの世界的な景気後退や円高の進行などにより、急激にインバウンド観光が減少し、加えて各県とも厳しい財政状況の中ではございますが、中国5県が共同して取り組むことによりまして、また官民の知恵を集結することによって効果的な広域観光の振興が可能になるのではないかと考えております。

本日は、中国地域発展推進会議の設立総会ということでございますので、どうか皆様には忌憚のないご意見を、また活発な意見交換をお願い申し上げます。本日の会議が、そして今後とも、この中国地域発展推進会議が有意義なものとなり、中国地域のますますの発展につながることを祈念いたしましてごあいさつにかえさせていただきます。どうかよろしくようお願い申し上げます。

【司会】 ありがとうございます。

ここで、当発展推進会議の設立に当たりまして、鳥取県選出の赤沢亮正衆議院議員から祝電をいただいております。内容の朗読は省略させていただきますが、ご報告をさせていただきます。

さて、本日の会議の進行につきまして、これまでの経緯から、発展推進会議設立までの間、中国経済連合会の会長が議長を務めることとしてよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【司会】 異議なしということでございます。ありがとうございます。それでは、これから先の議事の進行は、福田会長、よろしく願いいたします。

(第1号議案ならびに第2号議案)

【福田会長】 それでは、会議の進行を務めさせていただきます。ご協力、よろしく願いいたします。

まず、中国地域発展推進会議の設立にかかわる議事といたしまして、配付資料の第1号議案の設立趣意書と、第2号議案の規約を一括してご審議いただきたいと存じます。

本件につきましては、5月28日に開催いたしました中国地方知事会・経済界合同会議の場におきまして既にご了承いただいております。

また本推進会議の役員につきましても、第2号議案の最後にありますように、さきの合同会議において初代会長は私、福田が務めさせていただき、副会長には藤田広島県知事、監事には二井山口県知事と林山口県商工会議所連合会会頭がご就任いただくことでご承知いただいております。

そして、この体制で今後2年間、すなわち平成22年秋の推進会議まで進めてまいりたいと存じます。

本日は、以上の内容で予定どおり中国地域発展推進会議設立の運びでよろしゅうございましょうか。

(「異議なし」の声あり)

【福田会長】 ありがとうございます。

それでは、私が初代会長を務めさせていただきます。役員にご就任いただきます藤田知事、二井知事、林会頭ともによろしく願い申し上げます。

では、引き続きまして、正式に議長として議事進行を務めさせていただきます。

(第3号議案)

続きまして、第3号議案、平成20年度事業計画案ならびに予算案についてご審議いただきたいと存じます。中国経済連合会事務局から説明をお願いします。

【事務局】 本推進会議の事務局を務めております中国経済連合会の松浦でございます。よろしく願いいたします。

それでは、6ページの第3号議案についてご説明いたします。

まず、1番目の事業計画案でございますが、5月の合同会議での議論の結果、広域観光の推進を今年度の検討テーマとすることとしております。今年度、残り半年の間では、この後行われます本日の意見交換の結果を踏まえ、さらなる検討を行いたいと考えております。

次に、2番目の予算案でございます。この予算案は、本日の推進会議ならびに今後予定されます幹事会などの開催にかかわる費用を、事業費、事務費として計上しております。半年間の事業でございますので、大半を

予備費としております。大部分は翌年度に繰り越すこととなります。

以上でございます。

【福田会長】 質問等、ございますでしょうか。

それでは、ありがとうございます。以上、中国地域発展推進会議の設立等に関する議案はすべて承認いただきました。

事務局を担当します中国経済連合会ともども、本推進会議の運営につきまして、皆様方のご支援、ご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

(広域観光の推進施策についての意見交換)

続きまして、広域観光の推進施策についての意見交換に入りたいと思います。

5月の合同会議におきまして、このテーマを本日の発展推進会議の議題として取り組むことについて皆様と合意いたしました。また、そのときの私の総括として、事務局に対して本日具体的な議論ができるようにポイントを整理するように指示しておりました。各幹事におかれては、本テーマに関係が深い各県の観光部局の方々も交え、幹事会において意見交換を行ってこられたと承知しております。それでは、まずその内容などを報告していただきたいと思います。

【鎌倉専務】 中国経済連合会の鎌倉でございます。お手元に「中国地域における広域観光振興方策について」

1という資料と、もう一つ、「広域観光に関する資料編」 2というのがあると思いますので、お手元にご用意をお願いしたいと思います。

それでは、資料1をごらんいただきたいと思います。私のほうから、中国地域における広域観光振興方策につきまして、これまでの幹事会での検討内容についてご報告し、今後の進め方についてご提案させていただきたいと思います。

幹事会は、7月と10月の2回開催いたしました。その間、個別に各県、各経済団体とも意見交換をさせていただいて本資料をまとめたものでございます。

くわしい経緯、内容等については、後ほどご説明しますが、本日の論点は次の3点でございます。

1番目に、中国地域の観光の現状を踏まえ、インバウンド観光の振興に的を絞って、中国地域一体となって取り組む方向でよいかというのが1点目でございます。

2番目は、インバウンド観光を振興するため、中国地域一体となった海外プロモーション、PR事業を重点戦略として推進することでよいか。

3番目には、具体的な事業内容や、その推進体制等につきましては、今後、検討部会を設けて検討し、次回会議、来年の5月目途でございますが、その会議へ報告するということがよいかというのが今日の主な論点でございます。

それでは、3ページ目をお開きいただきたいと思います。

中国地域における広域観光の推進につきましては、前回5月の合同会議におきまして、委員の皆様方から色々な意見をいただきました。その発言内容を整理しますと、まず書いておりますように、中国、台湾、韓国をターゲットとした観光誘致プロモーションとPR、中国5県で中国や韓国に向けたPRや説明会の実施等々、アンダーラインを引いた部分に見られますように、委員の皆様方からは、中国地域一体となったインバウンド観光の推進に関する意見を多数いただきました。

これを踏まえまして、4ページでございますが、7月に各県の観光関係者も入れた幹事会を開催いたしまして、地域一体となった取り組みの方向性を議論いたしました。

結論は、国内観光については、現在、JR西日本を主体として「DISCOVER WEST 連携協議会」により5県一体的に実施しており、観光客の誘客に有効に機能していると考えます。組織間の連携も有効に機能しているというような評価でございまして、数値的に見ましても、国内観光客の宿泊者数で見ますと、中国地域は全国の5.2%のお客様にきていただいております。書いておりませんが、経済規模6%経済と言われております。それよりは若干下回りますが、特段の問題はないという認識で一致しました。

一方、インバウンド観光、海外からの訪日観光につきましては、外国人観光客が今後も増加基調にある中、中国地方への外国人観光客が他ブロックに比べて非常に低位であるということです。後ほど詳しく説明をしますけれども、そういう非常に低位な状況にあるということです。また、現在5県が一体的に実施しているのは

「中国地域観光推進協議会」の事業のみであり、具体的に言えば、運輸局主導の「中国地方国際観光ビジネスフォーラム」というのをやっておりますが、これのみでございまして、5県が力を合わせて取り組むべきはインバウンド観光であり、これに的を絞って取り組むべきであるということで、各県、経済団体とも一致したわけでございます。

それでは、中国地域におけるインバウンド観光の現状と課題について、ポイントを説明させていただきたいと思っております。これにつきましては、資料編の7ページをごらんいただきたいと思います。

資料編の7ページは、都道府県別の外国人の延べ宿泊者数、平成19年のものを書いております。各県ごとに外国人が泊まれた数の累計ということでございまして、赤い棒グラフが中国5県の現状でございます。他県に比べて非常に低レベルにあるということが一目瞭然とおわかりいただけると思っております。宿泊者が一番多い広島県におきましても、全国順位では16位というような状況でございます。

次に、8ページに参りまして、それでは外国人宿泊者の割合がどのようになっているかということで、地域的に見ますと、左下のグラフをごらんいただきたいと思います。中国地方への外国人宿泊者数の割合は1.6%と言うような状況でございまして、経済規模の約6%と書いておりますが、それに比べても非常に低いし、他のブロック、特に九州あたりは8.9%と言うような状況でございます。それと比較しても非常に低位な状況にあるということでございます。

また、右の下のグラフをごらんいただくとおわかりになると思いますが、中国地方への外国人宿泊者の64%が広島県に集中しているといったような状況になっております。

続きまして、9ページをごらんいただきたいと思います。次に、来訪されている外国人の国・地域別の割合はどうなっているかということですが、右下に中国地方への外国人宿泊者数の国・地域別の割合を書いてありますが、まず、国・地域別割合では、1番が韓国、2番がアメリカ、3番が欧州、4番が中国、5番が台湾というようになっておりまして、欧米系の外国人の宿泊者の割合が高いのは広島県がこれを押し上げているということでございます。

それから、中国地方への東アジア各国からの訪問率は高うございますが、これでも全国的に見ますと非常に低いということで、ちなみに、中国地域トップの韓国でも、全国的に見ると1.5%と非常に低位な状況にあるということでございます。

次は、ちょっと飛びまして、12ページをごらんいただきたいと思います。

12ページは、中国地方への外国人入国者数と宿泊者数の現状を示したグラフでございます。オレンジ色の棒グラフは各県の空港や港湾へ直接入国された人の数でございます。それから、緑色のグラフは、各県のそれぞれで泊まれた延べ宿泊者数を示しております。特徴的なことは、山口県のところを見ていただくとおわかりいただけると思うのですが、山口県の場合は直接下関港等へ約10万人の外国の方が来られているという状況でございますが、泊まられている数で見れば3万3,000ということで、延べでもこんなものでございまして、ほとんど九州地域にお客さんが流れているというような状況でございます。

広島県は約4万8,000の直接入国者数に対して、延べ宿泊者は約23万ということでございまして、これは広島に直接入国するのではなくて、それ以外から入国されて、広島に観光に来られる方が多いというような状況を示しております。こういうようなインバウンド観光の状況でございます。

それでは、元の資料の5ページをごらんいただきたいと思います。

先ほどご説明したように、インバウンド観光の現状は中国地域においては非常に厳しいものであるということです。このまま推移すると、これからの大交流時代の中で取り残されてしまうという危機感を持つ必要があると考えております。そういうことで、幹事会としましては、課題として中国地域の観光地の知名度を上げるため、韓国、中国、台湾、香港に対してどのようにアピールしていくか。それから、広島への外国人観光客、主に欧米の方をどのようにして他の県へ誘客していくかということが大きな課題であると考えました。

次に、6ページに参りますが、それでは、中国地域一体となったインバウンド観光をどのように推進していくかという戦略について検討いたしました。考え方としては、そこに書いておりますように、中国地域全体で取り組んだほうが効果的、効率的なもの、中国地域一体でなければできないもの、それから3番目に、利害を超えて取り組むことが求められるもの、そういう視点で検討した結果、次のような7項目の戦略が上がりました。

まず1番目に、海外マーケットの調査、分析に基づく魅力あるモデルルートの開発。2番目に、中国地域一

体となったプロモーション、PR活動の実施というようなことをごさいます。3番目は、インターネットを活用した中国地域観光の情報発信の促進。4番目に、海外教育旅行の誘致促進。5番目に大規模イベントの誘致促進。6番目に受け入れ環境の整備促進ということで、二次交通体制の整備や、案内所、案内看板等の整備も進めていく必要があるのではないかといたったようなことをごさいます。7番目に、他ブロックとの広域連携、こういったことが戦略的に考えられます。

ただ、これらは総論的な戦略でございまして、これを実践する場合には、やはり優先度を考えて、重点志向で取り組む必要があるのではないかと考えます。したがって、当面、何に重点を置いて取り組むべきか議論した結果、8ページに書いておりますように、いかに中国地域観光地の知名度を上げて、海外からの旅行者を増加させるかということが重点課題でありますので、重点戦略としては、中国地域一体となった海外プロモーション、PR事業の実施ということに的を絞って取り組むべきではないかという結論に達した次第でございます。

そこで、9ページに参りますが、具体的にどのような方策で取り組むべきか、意見交換した結果、次のような具体的な方策例が出ております。例えば、海外プロモーションオフィスの設置というようなことで、現地情報を速やかに把握して、中国地域の観光情報の発信をすることや、日常的なエージェントへの働き掛け、そういったことを進める。あるいは韓国、台湾等の観光客ニーズに即したテーマ型観光ルートの開発、3番目に商品化に向けた5県共同の現地プロモーション、観光展、商談会及び招請事業の実施。それから、海外テレビ、雑誌への観光情報の提供といったようなことが挙がっております。

これらについては、それぞれまだ意見段階のものでございまして、決定したものではありません。今後、費用対効果を十分考慮しながら詰めていきたいと考えております。

そこで、今後の進め方でございますが、何と云っても今後専門的な検討を進めなければならないということもございまして、各県の観光課及び経済界等で構成する検討部会を設置しまして、海外プロモーション、PR事業を中心に具体的な事業内容やその推進体制等を検討してまいりたいと考えております。

検討部会のメンバーは、発展推進会議の関係者、要するに県、経済団体の関係者。その他の関係者と申しますのは、観光関係の団体、企業、あるいは今後も運輸局との連携を強めながらやっていかなければならないということで、運輸局の方にもオブザーバーというような形で加わってもらったらどうかというように思っております。まだ決定したものではありませんので、今後、詰めて会長に指名していただきたいと思っております。

それから、検討部会につきましては部会長を置くということで、部会長はやはり観光に詳しい方が適任というようなことをごさいますので、いずれかの県の観光関係の課長になっていただけないかと思っております。本日、ご決定いただければと思っております。

以上がこれまでの幹事会での検討内容でございます。ご審議をいただければと思います。以上でございます。

【福田会長】 どうもありがとうございました。幹事会では当地域の広域観光推進の方向といたしまして、インバウンド観光を中心に検討するのが妥当との提案をいただきました。この検討内容に関しまして、あるいは関連してご意見があれば賜りたいと思います。どなたからでも結構でございますが、いかがでしょうか。

(林会頭の挙手あり) どうぞ、林さん。

【林会頭】 山口県商工会議所連合会の林でございます。ただいま事務局から説明がありましたことにつきまして、私からまず考えを述べさせていただきます。

私の地元、下関におきましては、韓国から年間10万人に近い人が入国いたしておりますが、それらの大半を占める観光客の多くは温泉やゴルフが目的であり、入国後、すぐ九州に流れ、中国地域にとどまる観光客は極めて少ないのが現状であります。このことが先ほど説明がありました資料2の広域観光に関する資料編の12ページにあるとおりでございまして、山口県はほかの4県と異なり、年間約10万人の入国者に比べ、延べ宿泊数は3万3,000人と非常に少ない状況になっております。

以前、プサンの旅行者の人に、なぜ下関市や山口県を観光しないのか、なぜ宿泊に結びつかないのかと聞いてみましたところ、何よりもまず生きた情報が欲しいということでした。パンフレットを見て、行きたいなどと思えるような商品を届けてほしい。それから、まだ我々の知らないすぐれた観光地がたくさんあるので、その具体的な内容、ルート、金額を提示してほしい。あるいは最近は富裕層も増えており、格安ルートから豪華ルートまでさまざまな層に対応した旅行商品が必要である、などの意見をいただきました。

今後、インバウンド観光に絞っていこうということでございますが、ただいま説明がありました資料1の幹事会での検討内容、9ページから10ページに示されている方法、具体的方策例として5つ出ておりますし、それから、今後の進め方として3つ出ておりますが、この資料のような方法で取り組まれるのがよいのではないかと私は考えます。

また、具体的な事業内容や推進体制などは専門家による検討部会で検討され、かつ議論だけに終わらず、具体的に行動を起こし、一步一步着実に中国地域の観光の浮揚、底上げに結びつけることが肝要かと思えます。

検討部会について、あえて注文をつけるお話をいたしますと、推進体制については既存の組織を活用、拡充するなど、効率的な行動ができるような体制にしてほしいと考えております。

それから、最後でございますが、各地域の広域観光組織の予算、各地域といえますのは、九州、東北、四国のことですが、その地域の広域観光組織の予算を比べてみますと、現在の中国地方における広域の観光組織といえますと、DISCOVER WEST連携協議会、それと中国地域観光推進協議会、この2つがあると思えます。予算の規模が、この2つを足した予算ではほかの地域に比べていかに少ないように思うわけでありまして、大変厳しい時代でありまして、予算を拡充するという事は色々問題もあると思えますが、やはり何と申しまして予算がありませんとどうしても行動が縮小していきますので、できるだけ予算の拡充について、私からお願いをいたしておきたいと思えます。

以上、私の意見を申し上げます。

【福田会長】 ありがとうございます。下関に韓国から10万人の方がお見えになるうちのほとんどが九州に流れてしまうというのは中国地方にとっても実に耳が痛い話でございます。

それでは、ほかにご意見はございますでしょうか。

実は5月の前回の合同会議では先に経済界が全員発言いたしましたので、今回は例えば、経済界と知事会とが交互にご発言いただくということでいかがでございましょうか。もしよろしければ、二井さん。

【二井知事】 今韓国からお客さんが来られているという話が出ました。これは台湾との関係なのですが、この資料の11ページ、「中国・四国地域の国際路線図」というのがあります。字が小さいですが、この4月に台湾から、台湾と岡山空港と山口宇部空港とを結んでやってみたらどうかということで、やりました。これを11便として計画しました。資料には11便とそのまま書いてありますが、実際に山口県に来られたのは、11便のうち4ツアーだけだったんです。岡山空港に降りて、山口宇部空港から帰る、あるいは逆のコースで帰る、というようなことをすれば、中国地方のそれぞれの観光地に行っていただけではないかということで計画したものです。

ところが、ちょうど秋の時期に計画をしたということももちろんあったんですが、岡山空港から京都、大阪に行きたいという人が非常に多くて、結局山口県に来られたのは、一応計画では1,650人ぐらい来ていただく予定にしていたのが、390人ぐらいだった。あとは大体京都のほうに、岡山も見られたかもわかりませんが、京都、大阪のほうに行かれたということです。したがって、どうしても中国地方の観光地がまだ十分PRをされていない。それから、そういう台湾や韓国の人たちのニーズに十分応えていない形になっているのではないかとことです。

したがって、せっかく色々なことをやっても、なかなか中国地方を回っていただけないというのがありますので、特に東アジア地域の皆さんのニーズにいかに応えるかということで、先ほど話がありましたような海外プロモーション、PR事業等をいかに進めていったらいいのかということを中心に考えていく必要があるではないか。それぞれ各県とも、私どものほうは韓国の慶尚南道と姉妹提携していますし、中国の山東省とも姉妹提携していますから、そういう形の交流の中で、個別の県にはそれぞれ来られていると思うのです。それがこの中国地方の中でうまく回るようなことをいかにしたらいいのかということこれからインバウンドの中で考えていかなければいけないのではないかと私も思っております。

したがって、予算の話がありましたが、財政的な問題になると非常に色々厳しいことがあるかもわかりませんが、予算関係については何をまずやるのかということ整理をしてから考えていったらいいのではないかと思えます。以上です。

【福田会長】 どうもありがとうございます。それでは経済界のほう、大田さん、お願いいたします。

【大田会頭】 まず発展推進会議の今日の設立、まことに敬意を表する次第でございます。広域観光に関する資料編を見ますと、外国人の延べ宿泊数が全国で2,265万人、中国地方で36万人というのは、まさに知

名度が中国地方は低いということが如実にわかるということになると思います。

今、国においても、観光立国基本計画を策定されておりますし、広島県においても同様に観光立国推進基本計画を策定されております。岡山県も策定をされていると伺っております。中国地方が一体となってこういう観光振興、インバウンド振興をやろうということになると、やはり外国人の来訪者数や国際会議の開催数など、1つの数値目標をはっきり、今度作られます検討部会でしっかり議論して作ってもらったほうがいいのではないかと思います。

特に今ドル安、ユーロ安等で観光には非常に難しい時期にあると思いますが、戦略として、海外プロモーション、あるいはPR事業の実施を行うということになると、こういう為替動向をにらみながら、検討部会の部会長は、厳しいかじ取りになろうと思いますが、一番観光客数が多い広島県の課長さんが担当されるのがいいのではないかとご提案を申しあげたいと思いますが、いかがでございましょうか。

【福田会長】 では、それも含めまして、後ほどご討議願いたいと思います。それでは、順番から言ったら藤田知事になるのでございましょうか。

【藤田知事】 広島県は86あった市町村が23に統廃合した結果、それまで86の市町村が開いていた観光情報のホームページが随分消えてしまったのです。ですから、広島県で何か面白いものがないかと思って探そうとしても、それを見つけ出すのに非常に時間がかかり、難しい。さらに宿泊地情報、あるいはお昼ごはんを食べられるところはどこがあるか。県のホームページはそれなりに立ち上がっているのですが、各市町のホームページがまだ充実できていないということがあります。

実は時々中国地方各県のホームページをのぞいてみるのですが、いずれも同じような傾向にあるのではないかと考えておまして、海外の方々が、パーチャルにどこか行ってみたい、行ってみようかとずっと検索していったときに、効率的な検索ができない。例えば下関に入って、それでは島根に行って、鳥取に行って、どこかに行って帰ろうかと思っても、その連携ができていないのだと思うのです。これは単に知名度の故だと思うのですが、バンコク便が就航したときに、バンコクエアウェイズの社長の親戚が30人ぐらいお見えになりました。どこに行ったのか聞きましたら、錦帯橋に行って、そこから松山に渡って、それから広島に戻って、広島イン、広島アウトで3泊4日ぐらいで回っていったというようなお話で、これは純粹に彼らが調べて泊まれたのだと思うのですが、ちょっと我々のアイデアにはなかったルートを回っておられました。ですから、中国地方に行ってみたい、あるいは中国地方に入ってくる人にどう回ってもらうかということと、どうつなげて商品として開拓できるかということ、行ってみたいと思う人たちがネットに入ってきたときに、リンクでどんなものがのぞけて、どこまで内容を見ることができるか、こういうことを各県連携して相当しっかりやっていく必要があるのではないかと考えています。

それと、目標値の話がございましたが、中国人のお客様だと、上海は別にしても、ほかはまだ買い物ばかり。韓国だと、温泉、ゴルフに買い物。台湾だとむしろ秋吉台、秋芳洞とか、景観、あるいは歴史というふうに、東アジアといっても全然興味の対象が違ふんですね。ですから、国別に商品がある程度絞って目標値を立てていけないといけないのだろうと思いますし、この辺はどこか現地の旅行代理店あたりとタイアップして少し細かい手を打っていかないと、なかなか本格的な集客というのはやりにくいだろうと思います。今度は受け入れた我々側がどうやって彼らを、特に言葉の壁がなく楽に回っていけるようなプログラムを組めるのか。そういうところが次の問題になってくる。それができた後に今度は話を聞いた人たちがインターネットでアクセスして、自分たちの日程を組んで、自分でやってくるという順番を追っていくと思いますので、まず国別、そして年齢別、それによってコースの構築、それから我々受け入れ側の十分な連携、そしてインターネット情報の連携というものが必要なのではないかと考えています。

【福田会長】 ありがとうございます。それでは、岡崎さん。

【岡崎会長】 先ほどの資料で行きますと、中国地方の国別の宿泊者の数、インバウンドの宿泊者の数、私は県内の方は大体わかっていたのですが、中国5県がこんなかなという感じが少しして認識を新たにいたしました。

日本で有名な都市3つのうちの1つに広島が入っていると思います。海外で日本の都市の認知度は、1番は東京ですけども、たしか3位は広島だったと思います。ですから、もっと高いと思ったのですが、わりあい泊まっていただけなんだなと思いました。もちろん訪問されている人はたくさんいらっしゃるのだと思うのですが、そういう感覚はいたしました。

岡山の場合は、7万人くらいの宿泊者ということですが、岡山へ訪問される観光客の約3分の2は韓国からなのです。韓国からのお客様が多いということで、韓国とのかかわり、我々としては例えば色々な市町村ごとのエコ交流協定を結んだりなど、韓国とは非常につながりが深いものですから、そのような関連から、韓国に限って考えてみました。

もちろん先ほど藤田知事さんがおっしゃったように、それぞれの国によって興味が全然違うのだと思いますので、これが全部ということにはならないと思うのですが、お互いにウィンウィンの関係でないといけな。お互いの利益、もしくは理解が進むといいでしょうか、といったことでなければいけないという具合に思っております。

昨年、朝鮮通信使が400周年ということで、ほかの地域でもやられたようですが、岡山でも行事を行いました。韓国からも大勢の方においでいただいて記念行事を行いました。その折に、石井知事に記念誌に祝辞をいただいたのですが、「通信は信をもって心と心が通じることだ」という言葉をいただきました。そういう姿勢こそ大事だなということで、まず関係が親密でないとうまくいかないのではないかと気がします。

そういったことから、我々と相手国との関係というか、大使館なり、領事館なり相手国の政府機関があると思いますが、そういうところとの交流を密にしてお互いの理解を深めていくということが大切ではなからうかという具合に思っております。

それから、現在、県内に韓国の方はたくさんおられます。中国の方もたくさんおられます。学生や、仕事で来られた方々、そういった方々の評価、評判といいたいでしょうか、いわゆる口コミで帰国されてからの色々な情報発信というものも非常に大事にしなければいけないということがあると思います。ですから、現在、県内にお住まいの方々に対する我々の気持ち、それから、おいでいただいた方々に対するもっと優しい気持ちといいたいでしょうか、商売もそうですが、相手の国の言葉で話すということは大事だろうと思います。私ども、韓国に行きますと、日本語で「いらっしゃい、いらっしゃい」や、「これ安いよ」と、買い物をしていると日本語で呼び込みをやっているのですが、日本でどれだけのお店が相手の国の言葉でやっているだろうかという具合に思います。そういった取り組みについて考えることが非常に大事ではなからうかと思ひますし、これは県などで、韓国であればハングル関係の会話事例集のような簡単なものを作っていたとか、そういうことをやっていただいてもいいのではないかと思っております。

それから、最近、NHKの番組に出たということですが、世界合気道大会というのがあって、これは田辺市の植芝盛平さんという方が合気道を始められたことの記念で、和歌山県の田辺市で世界大会があり、あまり外国人が来るようなところではないのに大勢来られたんですね。世界中から合気道の選手、もしくはそれについて色々な方が来られて町じゅう大騒ぎだったという話がありました。人が来る割に十分な宿泊施設があるわけでもありませんし、民泊をやったりして、まるで国体のときみたいにみんなやられたのだと思うのですが、必ずしも施設的には十分ではなかったが、受け入れる側の気持ちが来られた方々に非常な満足感を与えてお帰りいただいたということ、これは本当に観光を考える場合での一番大事なことだろうと思います。

また、NHKでもう1つ、韓国の済州島からのローカル・トゥ・ローカルの観光客誘致に成功した航空会社の話題がありましたが、やはり直接相手国のそれぞれの地域と結ばれるということは非常に大事だし、そうでなくても、例えば先ほども申しあげました色々な国との、特に韓国や中国等の国々の地域との交流といいたいでしょうか、姉妹縁組といいたいでしょうか、そういうこともどんどん広めていくことが大事だという具合に思ひます。これも認知度が上がるということにもなりますし、親しみも増すということにもなるかと思ひます。そういうこともやられたらいいのではなからうかという具合に思ひます。この点についても、発展推進会議として支援できるところは支援してほしいなと思ひます。そういったようなことでございます。以上です。

【福田会長】 どうもありがとうございました。それでは、石井さん、よろしく願ひします。

【石井知事】 岡崎会長からお話が既にあつたのですが、まず、岡山県でも観光の振興ということでご紹介いただきましたが、観光立県戦略を先般制定いたしましたして、そして、県といたしましても観光立県宣言ということを発表したところでございます。

地域発の観光交流拠点岡山を目指していこう、といった中で、観光客の受け入れ体制を充実・強化いたしまして、それぞれ目標数値を設定しております。観光客の受け入れの数、あるいは消費単価の引き上げ、そして特に外国人観光客の増加ということにつきまして、本県といたしましても具体的な数値目標を設定して取り組んでいくということに既にスタートしているところでございます。

そういった中で、外国人観光客の方々の快適な観光というものができますようにということで、全国的にもこれは珍しい取り組みでございますが、「外国人観光客受け入れ協議会」という組織を設立いたしましたして、外国語のパンフレット、今お話がございました韓国語、中国語、そして英語等々のパンフレットを作って配布することや、あるいは宿泊の際に不便を感じられないようにフロントの方々等に対しましてのそれぞれの外国語の研修を受けていただく。様々な文化とか、それぞれ食習慣とか違いますので、こういったことも十分習得をしていただくということで取り組んできているところでございまして、こういったことがこれからはますます重要になってくるのではないかと思います。とにかく外国人を受け入れるためにはしっかりと地元がそれぞれ官民挙げて体制を整備していくということがまず基本中の基本ではないかと思っております。

そういった中で、いただいております資料を見ておりまして、岡崎会長のお話のとおり、本県では10ページの数字を見ても、やはり韓国からのインバウンド観光、国別から見ても非常に多く、第1位であるということでございますし、またほかの国からの受け入れということから見ても圧倒的に多いというような数値がございます。昨今の円高ウォン安の関係で、大変今は厳しい状況ではございます。しかし、この点は非常に大事な視点でございまして、対韓国との関係ということにおきまして、私どもも現在も国際交流のさらなる推進ということで、県内の市町村の取り組みと並行して、本県でもまた新たな取り組みを今検討中でございます。こういったところをターゲットに、我々といたしましても韓国とのより一層の絆というものを高めていかなければいけないと、こう考えております。

ただ、その次の第2位を見るとアメリカということになっておりまして、隣の広島県さんを見てもアメリカが第1位のようにございますけれども、やはり山陽側としてみますと、アジアのみならず、欧米関係につきましても非常に多くのお客様が来られているということでございますから、それぞれの今の実情ということを踏まえまして、様々な観光ルートを設定する際にも、これを考慮に入れた取り組みというものがこの中国5県の連携の中で考えられていくべきではないだろうか、こう考えております。広域観光を考える際には、その連携が非常に大事でございますが、例えば欧米関係は山陽地域が連携して取り組むことや、そして韓国との関係で今本県も非常に関心が高いわけがございますけれども、鳥取に入ってきていただいて、そして本県を經由して香川県から出ていくといったルートも例えば考えられるわけでございまして、中国5県の取り組みのみならず、さらに隣県との取り組みというものに関しましても様々な商品を用意していくべきではないかと思っております。

藤田知事さんのご指摘のとおり、まさに旅行者ニーズ、それぞれ外国人の方はニーズが違うわけがございますから、それに合致した合理的、かつ効果的な観光ルートをぜひ提案をしていかなければいけないと考えておりまして、そういった面では、経済界と我々行政が一体となってこういう広域観光や、あるいはインバウンド観光に積極的に取り組んでいくということは、大変有意義であるというふうに私も考えております。

ただ一方で、自治体の財政は本県のみならず、どこの県も今非常に厳しいわけがございます。そういった面で、本当に効率的に予算というものの、予算化をして、事業を行っていかなければいけないところでありますけれども、ぜひとも経済界の皆様方におかれまして、ともに行政と連携していくということでお願いします。行政だけでは、やはり事業が効率的、効果的にできないというケースも多々あります。民間の方々、経済界の方々のノウハウというものを非常に重要視しながら、より連携した効果的な広域観光に取り組んでいくことによって中国地域が連携した取り組みというもの、これも非常に大事でございますし、またより一層もう少し広げた他県との、隣県との連携ということも、場合によっては重要なことでございますから、そういった点も柔軟に対応していきながら、全体として中国地域全体が発展していくように、そういった様々な商品もこれから開発していく、行政と経済界との連携というものが最も重要なのがまさにこの観光の問題ではないかということに改めて私もそのように考えております。以上で私の意見ということにさせていただきますと思います。

【福田会長】 どうもありがとうございました。では、宮脇さん。

【宮脇代表幹事】 いつも会長からゆっくり話せと言われますので、3つの例を申しあげます。ちょうど32年ぐらい前でしたか、それまでは色々な飛行機予約、ホテル予約、色々な観光の現場の人たちは大変だったんですね。飛行機を予約して、ホテルも予約して、ガイド付きで、バスですべてを回って、食事まで連れて行く。こういうパッケージツアーをJALが開発したんですね。これはJALパックと言います。それは沖縄で一気に増えたわけです。ちょうど私はそのときアメリカに行っていましたが、ハワイにもJALパックが来てまして、友人が、日本人というのは非常に金持ちだと言う。でも、「本当に幸せかい？」というわけです。その

裏には、日本人は大体 1,000 ドルですから、当時 28 万円ぐらいの費用で 4 泊 6 日で来るわけです。アメリカ人は 1,000 ドルで大体 3 週間ぐらい滞在するわけです。ですから非常に滞在型の、時間が長いということが欧米人にとっては必要だと。

もう一つは、先月、プーケットというところに行ったのですが、そのとき、ヨーロッパは、まだまだ円が高くない、ユーロもまだまだ落ちていないところです。ドイツ人と一緒だったんですが、彼は 3 週間でした。去年は家族と一月いた。彼らは長くいますから、当然トランスポートーションというのはレンタバイク、レンタサイクルです。長くいるので色々な交通機関にしても、彼らは自分たちで動きたいわけです。

3 つ目は、ちょうど一昨日だと思うのですが、NHKのBSで世界の観光の話をしていました。各国の男女が出ていまして、その中で一番行きたいところは京都、奈良、大阪、東京ではないんだと言っていました。東京はビルの谷間で、ヨーロッパ人、アメリカ人は全然面白くない。浅草や特に有名なのは高尾山。これは、噂に聞いたのですが、たまたま高尾山に行った人はその外国人のうち 3 人ぐらいいたのです。理由はインディケーションが色々な言語、英語、日本語、ロシア語等があります。高尾山の歴史とか、このポイントビューが一番いいんですよというのが全部、小冊子になっているのです。行った人にどうして行ったのですかということ、口コミなんです。自分の友達がぜひいいからという形で広がりまして。ですから、そういうのを見たときに、長期滞在型なので、逆にただホテルがどうのこうのではなくて、交通手段、オランダのように自転車を貸すことや、歩道をきちんと持つなど、当然今までのどうしても我々日本人の感覚ですと、行くホテルとかにインディケーションを出しますが、欧米の人たちは長くいますから、1 人当たりの売り上げも大きいわけです。ただ、一般の商店とか好きなんです。そこにも全部同じようなりテラシーの高い観光のホスピタリティができるようなものを入れなければいけない。少し時代が変わってきたことも 1 つあります。

その中で、ちょうど先程の資料を見させていただいたら、韓国、中国、台湾、これは欧米型とは違いますが、かつての日本と同じように短期でパッケージで回ってきますから、そんなに急ぐことはないと思うのです。ただ、韓国の人は城が好きなんです。韓国と日本と台湾、特にあまり文化が変わらない。城、堀、船の周遊、寺が好きなんです。ですから逆に、さっき藤田知事がおっしゃったように、それぞれのバリエーションに合わせたような形での対応が要るのが 1 つあります。

それと、これから先は、最後に私の個人的な意見なのですが、現実的に見たときに、足元を見れば、人はどんどん減っているわけです。自然減はやむを得ないにしても、非常に流出減に歯止めがかからない。そのための雇用の創出、そのための産業振興。産業振興の中の一部として観光を産業化しようじゃないかというような位置づけがあるわけです。ですから、GDP を上げていくときに、観光収入が鳥根県ですと、1 人当たりで 3 万 4,345 円、平成 18 年度のデータです。鳥根県は 2 万 8,500 円。この差というのは、鳥根さんは大体県外から来られた人の 1 日平均滞在時間が 1.26 日。鳥根県は 1.66 日です。これを国交省としては 2 泊 3 日にしようと言っています。この「泊」が大きいわけです。そういうことを考えていったときに、「泊」が現実には非常に減っているわけです。

平成 14 年から 18 年の 4 年間で皆生温泉で 3 万 1,000 人、松江温泉は 5 万 6,000 人、9 万 2,000 人減っているわけです。そうすると、この辺も 18 万、20 万、減るわけですから、外国人がとりあえず 1 万、2 万来ててもあまり関係ないことですよ。だから、ぜひ、一緒にやらなければいけないと思うのですが、諸外国からのインバウンドを回す策も必要ですけれども、まず国内の観光客を中国地方に引っ張ってくる。

そのときに、たまたま鳥根さんと一緒に観光圏ができて、色々な名前があったんですね。「中海・宍道湖何とか観光圏」、「宍道湖・中海」だ。そのときに、非常に面白い話で、宍道湖なんていうのは小学校の読みにくい漢字の問題で出るわけですから、誰も知らないわけです。大山は「おおやま」と読みますから。要は観光客というのはみんなインターネットアクセスで来る人が多いのです。「鳥根県」のアクセス回数は何件ありますか。「鳥根県」は何件ですか。しかし「山陰」というのが圧倒的に多いのです。ということは、山陰に行きたいときに、多くの場合、この辺の地域だなということは全員が知っているわけですから、おそらく同じ話をしたときに、中国 5 県で「広島」というのは圧倒的なアクセスになるわけです。「広島」とアクセスしたときにすぐにリンクを張るわけです。そのときに、外国人は「中国」でアクセスする人はまずいないと思うのです。日本語はわかって、「中国」はチャイナですから。では、広島とか、そういうアクセスをしたときに、お互いに中国 5 県ができるようなリンクページ、外国人が好きな長期滞在型というのが自然ですから、そうすると中山間地域とか生きるわけですし、そういったものを一緒にやっていかなければいけない。観光庁の

指定を受けても、じっと待っていたらお金が落ちるわけではないんですね。これは各自治体がきちんとしたスキームを立てて、それに対して観光庁にはお金がありません。ただ、地域振興観光経済課というのが観光庁にありますね。その課長がやってきまして、このスキーム、これは農林水産省の予算を取ります。これは経済産業省のを使います。そういう形で全体の4割は保証しますと言っているわけですから、残り6割を基礎自治体と我々経済界である程度腹をくくってやらなければならない。現実、足元を見たときは国内観光の中で中国5県の中でのまず観光GDPを上げていくこと。それと並行して海外のそういう色々なウェブの話など、同時にやらなければいけない。

あと、事務局についての私の意見は、我々にはちょっと難しいと思います。「山陰文化観光圏」に関してはある大手の旅行会社の企画の係長クラスを手弁当出向させる。そういうふうなプロの企画をしながら5県に回していく。それは結果的には彼らのプラスになるわけです。そこに行政や、我々もついていかないと、なかなかこれは素人では難しいような気がします。またそういうふうな仕組みは各旅行会社も今困っていますから、もっともっと民間大手の、東京の英知を引っ張り込むようなことがあっていいような気がします。以上です。

【福田会長】 ありがとうございます。それでは知事、よろしく願いいたします。

【溝口知事】 島根もなかなか外国との直接の空港が無いなど、なかなか難しいことがありまして、それから、山陽、あるいは関西、東京から時間的な距離が遠いということで、短い旅行にはなかなか向かないところで、外国の方も少ないわけではありますが、近年は非常に増えております。19年度で見ますと、松江、出雲の地で外国人に対して割引をする施設で外国人の数を取っているのですが、それが3万4,000人ぐらいになっている。前年が2万4,000人ぐらいで、約40%増えている。それが去年ですから、今年は去年よりももっと増えているのと思うのです。

1つは、いて感じますことは、島根は古い日本が残っているということが関心のようでございまして、神話の出雲大社、あるいは中世の武家文化、松江の400年祭、あるいは石見銀山など、そんなことで外国人が来る。そういう人たちはかなり、世界の旅行を色々した、日本の中でも東京や主要なところは大体行ったという人なんです。かなり社会が成熟してきて、近隣の中国、あるいは韓国、台湾あたりでも買い物というよりも、古い日本を見たいというような人もだんだん出てきておりますから、そういう意味で、そういう人たちをターゲットにする場合に、島根も若干役に立つ時代が来たかなという感じがします。

この前、ウラジオストクへ行きまして、ウラジオストクというのは明治時代、ロシアが太平洋側に作った最初の軍事都市で、歴史が浅いんですね。その日本の総領事などが言うのは、やはり島根のような古い歴史のところに非常に関心があるから、そういうことを宣伝したらいいのではないかというようなことを言われておりまして、そういう意味で、中国5県でやる場合に、島根の特色などを活用していただくと、近隣でも役に立つのではないかなという気がいたします。

この前、面白い話を聞いたのですが、島根で外国人が最もよく来る観光地は足立美術館なのです。これは日本絵画もありますが、お庭が非常に手入れがよくて、ややモダンなんですけれども、きれいでして、アメリカのガーデニングといいますか、ジャパニーズガーデンのナンバーワンをここ数年続けているということで、日本庭園に対する関心は、特に欧米の人はありまして、そういう人たちは足立美術館目当てで来るということがあります。

その営業の人が大阪で、日本の関西地区の人を呼んでいるのですが、どういう宣伝をしているかについて話を色々聞くことがあったのですが、足立美術館がいいというのはかなりの人が知るようになったということです。むしろ足立美術館だけでは来てくれませんから、足立美術館に来ると、ほかに、松江城や、出雲大社など、むしろそっちを宣伝するということを言っておりましたので、そういう意味で、例えば広島、原爆ドーム、あるいはモダンな広島と同時に古い世界がちょっと足を伸ばすとあるというようなことでやりますと、中国5県でそれぞれの特色を生かして、総合的に見ると色々なことが楽しめるというような宣伝が外においてできるのではないかなと思います。そういうやり方などもよく専門家などに聞きまして、外でPRをするというのではないかな。外の旅行会社に宣伝するというのが中心でしょうか。

欧米の人はマーケットが広すぎますから、あまり欧米まで出かけてというのは無理で、むしろ日本の中で企画をする人があるみたいですね。外国人、特に欧米人を中心に、旅行のパッケージを作るということです。それを外国に送り出すほうが要請するということがありますから、そういう人たちは日本の国内で、古い日本を見たいような場合にこういうふうにしたらいいと提案する。東京、大阪、あるいは岡山、広島の後、次にどこ

に行くかというような使い方があると思います。そういう意味で、中国5県で色々な観光活動をするというのは役に立つ、そういうことが有効な時代になってきたような気がしますので、今回の取り組みはそういう意味で鳥根県にとっても大変ありがたいことだと思っている次第でございます。

【福田会長】 どうもありがとうございました。それでは、安藤さん、お待たせしました。

【安藤会長】 それでは民間のほうのしんがりでございますが、宿泊数が46位でございますので、私の決意表明と、それから皆さんの今後のご協力をお願いするという意味で、若干抽象的になるかと思いますが、申しあげてみたいと思います。

そういう意味から見まして、この中国地域発展推進会議の設置というのは大変我々期待させていただくところでございますし、日本の経済の将来を考えてみますと、特に地方分権であるとか、これを一層推進すること、今まで皆さんから出ておりますけれども、官民が一体となって色々な面で発展に努力するという意味で大変ありがたい組織だなと思っております。

特に今日に至るまで幹事会で随分色々ご議論いただいて、その生の記録を見せてもらいますと、広域観光というのは大変問題が大きかったようでございまして、いわゆる各県の事業の重複の問題、あるいは県境の問題、この辺が幹事さんの中で色々厳しい議論がとり行われたように伺っております。

いずれにしても、今後、既に皆さんの口から出ましたように、各県協力してやっていくことというのが一番大事なことだと思いますので、少し時間がかかる面はあるかもしれませんが、ぜひ実のあるものにしていききたいと思っております。

具体的方策につきましていくつかの、これもほとんど皆さんからご意見が出ておるのですが、申しあげてみたいと思います。

鳥取県の場合、観光資源は本当にたくさんあると思います。これをPRが下手だということと、とにかくそれを日本国内にもあまりきっちり示していないということです。まして世界をやということだろうと思うのですが、先般、10月に観光庁の観光圏整備実施計画の対象地区に選ばれて、中海・宍道湖・大山観光圏というものが認定されました。今後、これをどうやって活用していくかというのはまた宮脇さんとも相談させていただきたいと思っております。

それから、インフラとして韓国との定期航路、週3便ですが、これがございまして、来年2月には平井知事のご努力で、境港、韓国、ロシアを結ぶ定期貨客船の運行も予定されておりますので、いわゆるインフラというのはだいぶ整備されつつあると思います。そういうことで、あとは、これもどなたかから出ておりましたが、やはりあまり自分の資源を押しつけるのではなく、顧客主義に徹した検討を行っていく必要があるかなと思います。いわゆる顧客の目線に立った検討が必要であろうかと思っております。

それから、2番目に、これも当然のことですが、これは我々の問題だと反省しておりますが、民間の経済団体の一致協力した体制が必要であろうかなと思います。鳥取県の場合は大変遅まきながら、先般、「鳥取県経済団体連絡協議会」を発足させました。これはほかの県の皆さんには既にあるようでございますので、大変遅まきながらということになります。

それから、行政サイドへのお願いは、県境を越えた協力体制、これをぜひお願いしたいなと思います。これはいわゆる国のほうも中国5県という縄張りで物を考えておられるようでして、いわゆる近畿圏等にまたがるような企画を持っていきますと、それはうちの管轄ではないというようなことで撥ねられる場合もあるようでございますので、ぜひこの辺は、いわゆる地方行政、国の行政を超えて県境を越えた体制というのを作っていただきたいなと思います。

以上、要望も兼ねまして、申しあげました。

【福田会長】 どうもありがとうございました。それでは、平井知事、お待たせいたしました。

【平井知事】 あと1人でございますので、まずちょっと聞いてやっていただければと思います。早めに終わってしまった場合は、食事の時間はちゃんと繰り上げられるように手配をさせていただきましたので、議長のほうでご相談をいただければと思います。

まず、今色々お話が出ていますように、この場で大体コンセンサスが得られると思うのですが、広域観光は、中国地方全体でやっていくという視点が今まで弱かったのではないかと。これにぜひ取り組むべきだということに私も大賛成でありますし、その一角の役割を果たしてまいりたいと思います。今までは、どちらかというとなら5県がそれぞれに、言葉は悪いかもしれませんが、競争していたかもしれませんが、むしろ協調する、そして一

つの圏域をつくり上げていくという決意をこの場で固めるべきではないか。それこそ、こうした経済界と知事会との共同の場ができたことの意義ではないかと思しますので、そのことをぜひ議長におとりまとめをいただきたいと思ひます。

例えば、宣伝をするに際しても、「何々県のどこ」というのはもうやめたらどうかと思うのです。中国地方として宣伝をするのであれば、「中国地方の宮島」であり、「中国地方の松江城」であり、「中国地方の大山」でありというように、私たちも意識を切り替えて売り込まなければならないのではないかと思います。

それで、今後の進め方についての意見をということで議長からお話ございましたが、私は若干事務局の意見と違うところがございますのは、本気でやるべきではないかと思ひます。せっかく広域観光を中国地方全体でやろうという決意を固めるわけでありますから、口はばったいで非常に恐縮でありますけれども、検討部会をつくって、それを広島県の課長さんを会長にしてと先ほど大田会頭からお話ございましたが、もっと格を上げたほうがいいのではないかと思います。副知事だとか。副知事が暇だというわけではありませんけれども、時間もあるでしょうし、経済界と人脈もありますから、例えば副知事級の人で各県が集まってやると。経済界も、そうした決意を込めて体制を組もうじゃないかぐらいの話のほうが、初動としてはいいのではないかと思います。せめて部長級とかですね。どうしても課長になりますと遠慮がありますし、他部局にまたがることの発言がしにくくなりますし、調整的になってくると思ひますが、私たちが新しい観光圏をつくらうという、そういう決意で臨むのであれば、もっと格上げて、私は初動は走るべきではないかと思ひております。

それから、宮脇代表幹事からもお話ございましたが、民間の意見を入れるべきだと。私も賛成であります。しっかりとした観光の見識を持った人も中核的な働きを与えて進め始めたほうがいいのではないかと思います。

それで厄介なのは、この圏域について統一のイメージを少し汗してでも、あるいは中国圏域5県で募集してでも始めてみてはどうかと思うのです。「DISCOVER WEST」というキャンペーンをJRがされまして、これに対して全県で3,000万お金を出し合ってやるという仕組みになっておりますけれども、ややわかりづらいと思うんです。ウエストというのは、どこのウエストなのか。多分JR西日本の中のウエスト地方なんだ、こういうことなのではないかと思うのですが。あるいは、東京から行くとき、西のほうだとか。でも、どこだというのはよくわからない。私は、広域観光圏としてインバウンドを呼び込むというのであれば、さらに次のステップとして国内観光、東京からもお客さん呼び込めるような、そういうポリシーを持って進むべきだと思いますので、何か統一的な、私たちの地域はこうだということを訴えかけるものが欲しいなと思ひます。

先ほど溝口知事がおっしゃったように、日本の中の日本、日本らしい日本を見てみたいのならここですよという、そういう気持ちで一つの統一コンセプトをつくるとか、何か仕掛けが必要なのではないかと思います。それは国別に言ってもいいと思うのです。例えば中国とか韓国だとか、あるいは台湾向けでは。私は「中国地方」というのは面白い言葉だと思うのです。中国語で言えば「日本の中国(リーベンダチョングオ)」、日本の中の中国である、そんなのはどんなところかなということ、例えば原爆ドームがあったり、あるいは岡山城があったり、蒜山があったり、こういうところですよという、そういう切り口で一つの中国というのを、日本の中にも中国があるんだということから始めてみるなど、何かわかりやすい訴えかけをそれぞれの国に対して戦略的に持ってはどうかと思ひます。

欧米に向けては、私は「COOL」という言葉かなという気もするのです。「格好いい」、あるいは「とっても洗練された」というイメージです。欧米の人にとって、東京だとか大阪というのは、ある意味雑然とした感じがするんですね。彼らは自分の家の中もきれいに飾ろうとしますし、芝生なんか隣の家のことまで文句をつけるという、そういう文化であります。そういう文化の人たちにとってすれば、とてもきれいなところだな、そういうイメージが多分あるのだらうと思うのです。そういう欧米の人向けに訴えかけるような、そういうテーマなり言葉を私たち自身に、この中国地方に対してネーミングをする必要があるのではないかと、その辺も含めてぜひ検討を始めていただければありがたいなと思ひます。

【福田会長】 本当に皆さん、積極的に、議長の想像をはるかに超えました非常に前向きな、なおかつ広範なご意見を賜りましてありがとうございました。

伺ってしまして、委員の皆さんが本当に広域観光というもの、あるいは中国地方をいかにこれから売り出していくかということに対して、大変前向きでいらっしゃいますし、ご期待度が高いというふうに認識いたしました。

専務理事が説明しましたように、インバウンドに関しましては中国地方の宿泊は1.6%、お隣の九州は8.9%と言う数字は象徴的なものとして私どもは頭の中に入れておかなければいけないのではないかと思います。それからもう1つ、冒頭出てまいりました下関には10万人来るけれども、みんな関門海峡を渡って向こうへ行ってしまうんだよということも、やはり私たちの頭にしっかりと刻み込むのがこの第1回の我々のキックオフかなと思っております。

大変たくさん出ましたので、私もメモしていましたが、相当混乱しておりますけれども、中国地方というものに対して、いわゆる検討部会に対して今ものすごくいろんな宿題を賜って、うれしい宿題を賜ったと思っております。ちょっとここで聞きたいのは、山口県さん、特に二井知事さんのところ、あるいは林さんのところで、下関市のほうは例えば伝統的に30年来にわたって直接近隣の都市と非常にいい関係をつないできていて、去年は共同的に色々なことをやっていきましょうということの契約を結ばれたという話があります。それから、二井知事のほうは近隣諸国と既に色々交流しているということをおっしゃいましたが、その辺の頻度が他県に比べて際立って高いのではないかと思います、ご紹介賜れませんか。県並びに下関市ですね。

【二井知事】 下関の場合は北九州市との関係が非常に深いわけですから、「関門市」という言い方の中で連携を取ってやっていますから、色々な事業をやるにしても、九州のほうをどうしてもにらんだ形になってしまっているという面はあると思うのです。

ただ、北九州のほうにもかなりの韓国人の人が泊まれるわけですから、山口県のほうにも温泉というのは5地区ぐらいあるわけですから、どうしても知名度は別府とかいうのが高いものですからあちらに行ってしまう。だから、我々はもうちょっと、せっかくさっき話がありましたように、韓国からあれだけ下関に来られるわけですから、私のほうに韓国の皆さんのニーズを踏まえて、もうちょっとPRをしなければいけないというのが1つはあると思うのです。

それから、さっきから話がありますように、中国地方だけではやはり限界がある面もあります。私のほうは、愛媛県、広島県と、瀬戸内海という形の中でPRをしたほうがいいのではないかなというようにもあって、3県で海外に向けてPRをしている。特に中国に対してなどですね。ということをやっているということです。

【福田会長】 県としての交流ということで、ちょうど日本海を挟みまして向こう側にいくつかの国がございますが、そういうところと県知事、あるいは下関市とか山口市の市長さん等が何らかの格好で交流をやっておられるのではなかったときいておりますが、いかがでしょうか。

【二井知事】 これは、交流は私のほうは九州とのかかわりも深いものですから、長崎、佐賀、福岡、山口と組んでおります。ちょうど対馬海峡をはさんで韓国側のプサン、慶尚南道、全羅南道、済州島と連携して毎年色々な事業をやって交流をしているということはあります。

【福田会長】 わかりました。林さんのほうはいかがですか。

【林会頭】 下関では、「東アジア経済交流推進機構」というものを作っております。これは日本からは下関、北九州、福岡、それから韓国が蔚山、釜山、仁川、中国が、天津、青島、煙台、大連の10都市で、先々週ぐらい、蔚山で会合をやりましたが、2年に1回ぐらい会合を持っております。これも10都市が一緒になって経済交流を図ろうということですが、当面、やっていこうというのがやはり観光でございまして、観光の中で、今どういうことが提案されているかと言いますと、とにかく観光案内板、それからパンフレット、これを3カ国語のものを作ろうということです。例えば蔚山の公園に行きましたけれど、蔚山の公園に行きますと、記念碑に日本語の説明も出ている。それから韓国語の説明は出ておりますが、中国語の説明も出ている。こういうことを今進めていこうではないか、ということをやっております。それも2年に1回集まるわけでありまして、事務局レベルで色々話を進めていって、できるだけ効果が早く上がるようにみんなで努力をしようではないかということをやっています。

それから、韓国人がたくさん来たというのは、1年半ぐらい前ですか、ウォン高円安のときがございました。このときにたくさん来たわけでありまして、下関と釜山を結ぶ関釜フェリーという会社がありますが、史上空前のお客でありまして、非常に成績が上がった。そして、釜山の船会社が下関の対岸の門司港に向けて1つ航路を作った。これは今はもうウォン安円高になりましたから航行を中止しておりますが、そういう状況で、やはり貿易で輸出をするときは円安ドル高というのが影響しますように、韓国のお客が来るのもウォン高円安のときでないと、逆のときはあまり来ないようであります。ご参考までに申しあげました。

【福田会長】 ありがとうございます。先般、先週ですか、下関で会議がございまして、そのとき、下関市さんから中国、韓国、台湾の、先ほど林さんからご紹介がございましたような10都市でちゃんと交流しているんだということをききました。印象的でしたのは、DVDを発行しておられるみたいで、それぞれの都市を周遊してもらおうと、これを見てから来てくださいというふうに、もうここは既に広域観光を最先端で行っていらっしゃる。しかも30年ぐらいのもともとの歴史があるということで、これは非常に興味深いなということでマイクを振らせていただきました。ありがとうございました。

事務局がそろそろ時間だということを書いてきておりますが、誠に申し訳ございません。もうちょっとお時間を賜ります。

色々ご意見を賜りまして、冒頭、私が象徴的に独断で申しあげましたことが中国地域がこれから特にやらなければいけないことのキックオフになるのではないかと申しあげましたが、要は中国地方を、中国地域一帯がちゃんと一体感を持って取り組んでいこうということです。そういう中で、結論としては中国地域のPRが十分でない、ニーズにできていないということです。それから、色々な地域があるじゃないかということ、東南アジアもあるし、色々な国々があるじゃないか。国別にニーズが違うことを全部読みとって、メニューを1つ1つ作っていくべきじゃないかということです。国別、年齢別にコースを造る。それからインターネットも含めて、そういったことをちゃんと、受け入れサイドも充実していかなければいけないじゃないかというお話もございました。

それから、数値目標をしっかりと掲げて、それに向かってちゃんと邁進していくんだというご意見も賜りました。

それから、世界から来ていただくという、それが小さな市町村であっても、ちゃんとそういうところのホスピタリティというのを見ていると大事なことを示唆しているねとか、あるいは岡山県さんのほうも観光立県岡山宣言ということで、「受け入れ協議会」等を作られて、色々な格好で取り組もうとしておるということでした。共通に出ましたところは、とりあえず中国地域に来てもらって、そこからどこかへ抜けるというのは当然ある話ですから、石井さんもおっしゃいました鳥取から韓国の人が入ってもらって、岡山、あるいは香川へ抜けるというのは、それはそれで次のステップとして大事なこと、あるいは先ほど平井知事も似たようなことをおっしゃいましたが、九州もそうだと思います。しかし、まずは中国地域のこと自身が十分できていないのだから、中国地域にターゲットを置いて、その一環として、当然周辺部へのコースというのは視野に入っているわけですので、その順序はそういう格好で行かなければいけないなということです。

それから、宮脇代表幹事からは、同じ1,000ドルを使っても、日本人は4泊5日でさっさと帰ってしまうけれど、欧米型の場合は1,000ドルもあれば3ウィークもちゃんとおれるし、滞在型ということは、長期滞在というのは何だということを考えていくと、中山間地域にも通じるじゃないかということ、それから、本当に海外の観光客に対して至れり尽くせりのご案内ができる、例えば高尾山みたいなところにみんながボーンと飛んできてくれるんだよというご紹介もありました。

それから、安藤さんからも力強いお言葉を賜っております。

それから、中海・宍道湖・大山観光圏というのは、このたび国の認定を受けました。名前は「山陰文化観光圏」でしたか。これは大変おめでたい話でございます。こういったことをしっかりと充実させていくことも広域観光のスプリングボードになっていこうかと思っております。

それから、平井知事から、広域観光という視点が極めて弱かったというお話がありました。今までは各県ごとに競争だったけれども、これからは、この場を協調していこうということの決意の場にしましょうという力強いご提案をいただきました。

それから、後ほど皆さんのご意見を賜ろうと思っておりました検討部会の部会長をどなたにお願いするかということにつきまして、レベルの問題の提案もございました。

それから、中国地域に対して対外的に訴えるようなイメージというものも1つ募集してみたらどうだという提案もいただきました。全然違った発想でお願いすればいいのではないかという、これも検討部会での色々な検討課題かなと賜っておきます。

それでは、大田さんからご提案いただきました検討部会の部会長は現状での外国人観光客が中国地方で一番多く、かつ様々な県との連携も一番多い広島県がいいのではないかというご提案、課長さんという名前を出されましたが、それに対して、皆様、いかがでございましょうか。これはもちろん広島ということになれば藤田

知事のご了解が必要なのですが、どうですか。広島県以外の知事さん、いかがでございましょうか。よろしゅうございますか。藤田さんにお聞きなさいと溝口さんが言っておりますが、藤田知事、いかがでございましょうか。

【藤田知事】 事務レベルではそれで本県は受けさせていただいて結構です。

【福田会長】 ありがとうございます。それから、平井知事のおっしゃいましたレベルにつきましてはどうでしょうか。副知事というご提案もございましたが、その辺、何かご意見がありましたらお願いいたします。

【鎌倉専務】 議長、ちょっとよろしいでしょうか。事務局といたしましては、やはり観光に詳しい、実務に詳しい方がいいのではないかと思いました。それで、最終的には、やはり予算の問題等もございますので、当然幹事会のほうで最終的な調整はさせていただきたいと思っております。

【福田会長】 それでは、レベルのほうの話は、先ほど専務理事からそういうのが出ましたので、一応原則、広島県さん、藤田知事のご了解も得られましたので、部会長の選出県としては広島県さんをお願いすることといたします。レベル的なところにつきましては一応預らせていただくということにします。場合によっては課長さんということになるかもわからないということをお含みおきくださいませ。

それでは、私のほうの総括をさせていただきます。

広域観光をテーマとする本日の意見交換では、インバウンド観光中心に幹事会で整理してもらった事項にとどまらず、先ほど賜りましたそれぞれの視点での具体的なご提案も含めまして検討させていただくということでございます。

様々なご意見をいただきましたけれども、当地域にとりましてインバウンド事業を具体的に推進していくことが重要であるという点では皆様共通であったように思います。

検討部会の構成につきましては、規約では会長が指名することになっておりますけれども、皆さん方のご意見も参考にしながら決定させていただきたいと思っております。言うまでもございませんが、検討部会は発展推進会議の目的を達成するためのものですから、今後、部会メンバーとなられる行政、経済団体などの方々から専門的な立場で検討し、建設的な結論が出るように、委員の皆様方が力強くバックアップしていただくことを切にお願い申し上げます。

今後の進め方といたしまして、次回の発展推進会議において、本日のご意見も踏まえまして、インバウンド中心に検討部会での検討結果を報告させていただきます。

【藤田知事】 終わる前に一言。これは今日お集まりの経済界の皆様方をお願いなのですが、経済界の皆さんは、例えば商工会議所でどこかと姉妹縁組をしている、あるいはロータリークラブやライオンズクラブ、そういったもので、様々な海外の都市の皆さんと関係しておいでになりますよね。そういったときの交流事業のときに、初めての方、あるいはリピーターの方が来られて、どういう行動をしてお帰りになれるか。どこへ入ってきて、どこへ泊まり、これは当然商工会議所側で、連合会とか何とかということであれば県庁所在地で1泊して、何かして、どこかを回って帰られる。こういう行動パターンというのを知りたいのです。

我々行政のサイドですと表敬訪問という形でやってくるのですが、これが国家元首級の場合には、やはり羽田に専用機で降りて、新幹線で京都に行って、京都から広島に来て、平和記念館と原爆ドームを見て、専用機で広島空港から帰る。それから、大使クラスの場合には、結構多いのが、着任してからようやく来たんだとおっしゃるのですが、京都へ行き、広島に来て、やはり平和記念資料館を見て、最近はミシュランに宮島が載ったものですから、宮島を見て、帰りは名古屋に寄ってトヨタを見学して、また東京に帰る。これが大使級です。そういうふうに、国家元首、大臣、大使、総領事クラスで色々な行動パターンがあるのですが、民間の場合には皆さんがどういうパターンを取っておいでになるか。将来的な観光のマップを書いていく上で結構参考になるのではないかと思うのです。ですから、もちろん時間をかけてゆっくりでいいのですが、ぜひそういう経験則上のこういうパターンがあるよというのがあれば5県で寄せ集めて将来の参考にできればと思いますので、ぜひ教えてください。

【福田会長】 藤田知事のご提案、私どもとしましてもわかる限りのトレースはしてみたいと思っております。

ほかにございませんか。よろしゅうございますか。

それでは、長時間にわたり本当にありがとうございました。たくさんのご意見を賜りましたことを改めて感謝申し上げます、この会を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

以上